

18世紀, フランスにおける『王立農業協会』の
農事品評会 (comice agricole) に関する実証研究

An actual proof about comice agricole of Royal society of agriculture of
France in the 18th century

佐藤 崇章
Takaaki SATO

18世紀, フランスにおける『王立農業協会』の 農事品評会 (comice agricole) に関する実証研究

佐藤 崇章

An actual proof about comice agricole of Royal society of agriculture of

France in the 18th century

Takaki Saro

The purpose of this paper is to the society of agriculture that established in the middle of 18th century produced comice agricole (and concours agricole), The history of the society of agriculture and the of Internationale Salon of agriculture in 1844, The history of the history of Internationale Salon of agriculture. This comice agricole demonstrate to be connected the history of agriculture. This demonstration was revealed logically correct by various facts.

はじめに

18世紀後半に生まれた農業協会が革命以前、農業コンクール (Concours agricole 又は comice agricole 農事品評会) と呼ばれる農業品評会を作った。その品評会が1844年にパリ西部のポワissy という町で、現在のパリ国際農業見本市 (Salon international d'agriculture)¹ の原型になったと言われている。1760年から1844年における農業協会と農業コンクールの関係、ひいては、1844年にポワissyでパリ国際農業サロンの原型になるまで、18世紀後半にヨーロッパにおいて各国で作られた。フランスにおいては、1760年にトウ

1 岩田文夫, 「パリ国際農業サロン (SIA) の研究—歴史と現状理解のための初期フロッチー」(明海大学経済学論集 第14巻 第1号 2002年) を参照。

2 佐藤崇章, 「18世紀フランスにおける農業協会の設立—主として日本における研究の検証—」明海大学大学院経済学研究科修士論文, 2003を参照。
3 Care, G, "Bertin, ministre physiocrate," *Revue d'histoire économique et sociale*, 1960, p.263.

ル (Tours) の農業協会を始めに、1761年にパリにおいても設立され、フランス各地で設立された。その農業協会は、思想的背景として、重農主義の影響の下、一つの具体的な国の政策だった²。そして、農業協会は、農産物の増産、新しい農業技術の普及のために設立された。各知事に対して、委員会が内閣に対して果たした諮問の同じ役割も演じている³。そして、実際に、会議を開き、メモワール (mémoire 報告書) を出し、農業を实践していた。1771年以後、この活動は、突然やむ。協会は、20年の間、農業のテーマに関していくつかの賞を授与することに、そして、長官が、徴税区の耕作者に分配する責任を負う訓令の形でメモワール

(報告書)の実践上の諸問題に関して、メモワールを作成することに限定される⁴。1785年、3月に農業協会は、王立農業協会 (Société royale d'agriculture) と名前を変えた。そして、度まじ総監ペルタックが、農業協会という農業奨励団体を作り、農業問題を扱ったという表面的な表

現に終止しており、ローラン (Laurent, R)¹²も同様である。オージェーラリベ (Augé-Laribé, M) もマルターニユの農商工業協会の設立と活動を一言、二言簡単に扱うのみである。フランスにおいては、農業協会の研究は、ラビッシュ (Labiche, E), ジュスタク (Justin, E), パスヤ (Passy, L) ウーリュス (Weulersse, G), セー

シユは、各農業協会の運営上の財政面、協会

の活動を中心に記述している。ジュスタクは、各地の協会の設立の様子とその活動等を記している。パスヤは、協会の規則の面から農業協会を表している。ウーリュスは、協会が

セーは、ある地域 (Caen) とオーシェ

の農業コソクールが、現在の国際農業見本市の

形になったと言われている。そのポワソンの町

には、今でも、牛の道と言われる道が名残りを

残している。ポワソンの町は、中世後期から

王国から認可された「家畜の市場」というも

のがあり⁸、18世紀後半には、パリ南郊のソー

(Sceaux) とともにパリへの食料の供給地となっ

ていた⁹。

4 Lavergne, Léonce Guilhaud de (Louis-Gabriel-Léonce) "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Mondes*, juin, 1859, P.581.

5 湯浅起男「土地近代史論」木鐸社 1981年出版 P.190. Labiche, E, "Les sociétés d'agriculture au XVIIIe siècle", 1908, p.77.

6 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

7 Office de Tourisme de Poissy (ポワソンの観光案内所) にて収集した資料, "La Ville De Poissy A Travers Le Temps" (Office De Tourisme de Poissy, 2004.)

8 Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.598.

9 Labrousse, E, et Al, *Histoire économique et sociale de la France*, Paris, 1970, vol.2, p.665.

先行研究を以下に示す¹⁰。1760年~1844年までの農業協会と農業コソクールの関係の記述を示す文献は、少ない。阿河氏¹¹は、当時の財務総監ペルタックが、農業協会という農業奨励団

を作り、農業問題を扱ったという表面的な表

現に終止しており、ローラン (Laurent, R)¹²も同様である。オージェーラリベ (Augé-Laribé, M) もマルターニユの農商工業協会の設立と活動を一言、二言簡単に扱うのみである。フランスにおいては、農業協会の研究は、ラビッシュ (Labiche, E), ジュスタク (Justin, E), パスヤ (Passy, L) ウーリュス (Weulersse, G), セー

シユは、各農業協会の運営上の財政面、協会

の活動を中心に記述している。ジュスタクは、各地の協会の設立の様子とその活動等を記している。パスヤは、協会の規則の面から農業協会を表している。ウーリュスは、協会が

セーは、ある地域 (Caen) とオーシェ

の農業コソクールが、現在の国際農業見本市の

形になったと言われている。そのポワソンの町

には、今でも、牛の道と言われる道が名残りを

残している。ポワソンの町は、中世後期から

王国から認可された「家畜の市場」というも

のがあり⁸、18世紀後半には、パリ南郊のソー

(Sceaux) とともにパリへの食料の供給地となっ

ていた⁹。

4 Lavergne, Léonce Guilhaud de (Louis-Gabriel-Léonce) "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Mondes*, juin, 1859, P.581.

5 湯浅起男「土地近代史論」木鐸社 1981年出版 P.190. Labiche, E, "Les sociétés d'agriculture au XVIIIe siècle", 1908, p.77.

6 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

7 Office de Tourisme de Poissy (ポワソンの観光案内所) にて収集した資料, "La Ville De Poissy A Travers Le Temps" (Office De Tourisme de Poissy, 2004.)

8 Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.598.

9 Labrousse, E, et Al, *Histoire économique et sociale de la France*, Paris, 1970, vol.2, p.665.

フェスタクの文献から協会の目的と革命間の農業協会についてしか言及していない。宮崎力蔵氏は、ラビッシュの文献から18世紀後半に農業協会のことに関心が集まった事だけを示している。フェイレット・クリツクによると、地域的な農業協会は、イギリスに1760年以前にあった

し、フランスとイタリヤは、1750年代から農業

協会を設立している事、19世紀の農業協会につ

て言及している。フランスの地方の農業協会

の研究は多数であり、ここでは示さない事とす

る。農業協会の活動は、この当時フランス全土

に渡って影響力を示し、革命前までに36の協会

が作られた。当時、他の様々なアカデミックな

協会が、すぐに入会できた中で、農業協会は、

財務総監に選ばれた農業に関して有用な知識を

持つ者しか入会できなかったという意味におい

て、独特である。シヤン・リユック・マイヨー

がある論文で農業協会と農事品評会とパリ国際

農業サロンの紹介しているが、そのつながりを

はつきりとはまだ証明していない¹³。

次に、パリ国際農業サロンの元となる、農業

協会から生まれた農事品評会 (Comice agricole) の

(又の名を農業コソクール Concomours agricole) の

先行研究は、マルニユ・ポレオニス (Lavergne de Leonce) が2つの論文を残している。

13 Jean-Luc Mayaud, 《La plus grande ferme de France》, L'Histoire, n° 196, février 1996, p.10.

14 表題を「18世紀、フランスにおける『王立農業協会』の農事品評会 (comice agricole) に関する実証研究」として、阿河雄二郎「18世紀フランスの『農業革命』について」*études françaises* 大外外国語大学 1978年15巻 pp.67-92.

15 佐藤崇章「18世紀半ばにおけるフランス農業の発展—農業協会の貢献—」明海大学大学院経済学研究科紀要, 第5号, 2015年 以前に先行研究について、記述したが、再度示す。

16 阿河雄二郎「18世紀フランスの『農業革命』について」*études françaises* 大外外国語大学 1978年15巻 pp.67-92.

17 Labrousse, E, et Al, *Histoire économique et sociale de la France*, Paris, 1970, vol.2, p.665.

18 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

19 Office de Tourisme de Poissy (ポワソンの観光案内所) にて収集した資料, "La Ville De Poissy A Travers Le Temps" (Office De Tourisme de Poissy, 2004.)

20 Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.598.

21 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Mondes*, juin, 1859, p.581.

22 湯浅起男「土地近代史論」木鐸社 1981年出版 P.190. Labiche, E, "Les sociétés d'agriculture au XVIIIe siècle", 1908, p.77.

23 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

24 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

25 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

26 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

27 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

28 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

29 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

30 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

31 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

32 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

1. 農業コソクール (又、農事品評会) の設立の理由

本章では、農業コソクールの設立の理由につ

いて示す。

ラベルニユ・ポレオニス (Lavergne de Léonce) によると、1785年から協会は、農業の

フェスタク (Festy, O) によると、ラヴィア

シヤは、訓令において、農業の技術の改善の視

点で、政府、又、その中心人物によって取られ

た様々な措置を取り上げた。その一つがパリ徴

税区のいくつかの小郡における農事品評会の設

立だった¹⁶。

ギ・ケール (Guy Caire) によると、農業協

会は、不朽の業績を実現している。賞の設定で

それらは、農業コソクールの実践を創始してい

た。それらは、新しい耕作の実践を促進する

事、また、家畜の生育を促し、発展させる事を

目的に実行された。1788年にまだパリの農業協

会のメンバーだったペルタックは、それらを優遇

し、得られた結果を広め、実際の行動から補お

うとした¹⁷。

16 Festy, O, "L'agriculture pendant la Révolution française. Les Mondes", juin, 1859, p.597.

17 Lavergne, Léonce Guilhaud de (Louis-Gabriel-Léonce) "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.598.

18 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

19 Office de Tourisme de Poissy (ポワソンの観光案内所) にて収集した資料, "La Ville De Poissy A Travers Le Temps" (Office De Tourisme de Poissy, 2004.)

20 Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

21 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Mondes*, juin, 1859, p.581.

22 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

23 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

24 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

25 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

26 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

27 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

28 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

29 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

30 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

31 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

32 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

33 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

34 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

35 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

36 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

37 湯浅起男, Ibid, P.196, Labiche, E, Ibid, P.78. Léonce), "La société d'agriculture de Paris." *Revue des Deux-Mondes*, juin, 1859, p.603.

81

た報告を行う事を理解させた¹⁸。フランスにおいて導入された新たな品種のたみに、異種交配が行なわれた。この最後に試論の大部分は、恩恵をもたらした。耕作のように、金銭における奨励が与えられ、農業コンクールは、畜産業者が、より良い家畜を生じさせ、養育の分配とともに、比較を設けた。それは、それの人々の競争心に与えるよい刺激だった¹⁹。

パッサイ (Passy, L.) によると、私達は、田舎において、有用な協力を引き起こすために、必要な訓令を代理人に与えて、農業協会の討論を豊かにする事を目指す所見やメモワール (報告書) が書かれた。その後、イギリスの例や風習に着想を得て、これらの農事品評会の機構を導入したとある²⁰。

イギリスの例や風習に着想を得たとあるが、それは以下のようなイギリスの競売から着想を得ていた。1764年1月13日、ロンドンで嵐により洪水がおこり、2万頭の羊類が死んだ²¹。技師が、製造、そして商業の奨励の協会が、機械²²によってロンドンに集められたトラムの類の魚の供給地について話題にした²³。ここからは、推測になるが、洪水で商品にならなくなった魚を売るために、綺麗に洗って、干物が塩漬けにして保存して、1764年5月1日から8月31日まで競売が行われたとされる。イギリスの魚の競売 (Public sale²⁴) は世界で始めてではない²⁵。

- 18 Labiche, E. "Les sociétés d'agriculture au XVIII^e siècle", 1908, p.81.
 19 Labiche, E., Ibid., p.151.
 20 Passy, L. "Histoire de la société nationale d'agriculture de France", 1912, p.131.
 21 <http://www.phenomena.org.uk> 災害の年表史.
 22 機械といつても、これは、当時の釣り針と糸を意味していた。
 23 Gazette du Commerce 1764, le3 Février.
 24 オークションの可能性も否定できない。
 25 フライアブ・リマウソト著、中村勝監訳『イギリスの社会史』高村書店1993。オークションの歴史は、古代バビロニアの時代からあるが、オークションの慶古の出版としては、1595年の史実がある。初期の英文資料では、1795年にロンドンの

その販売の条件は、5ポンドだった。16インチ以下の毎日100匹のトラムの類は、捕まえて持ち帰るだけで、2ポンド10シリングが得られた。5ポンドと2ポンド10シリングの奨励金は、上述の4か月後、1か月以内にヴェッセル (Vessel) の長に支払われるべきである。その期間の間、魚を取った一定の量の場合に、称号を与えらるべきだが、協会は、前述の奨励金をその合計に対して制限した²⁶。

イギリスの例や風習というのは、魚の競売から着想を得たものだった。これが、やがてジャーナリストから財務総監ヘルタンの耳に入り、協会へ伝えられ、農事品評会 (又、農業コンクール) の成立に大きくつながったといえる²⁷。競売と農事品評会 (農業コンクール) との違いは、競売は売ることを目的に集められ、農事品評会には、競い合って、賞を家畜に授与する事を目的にする。農業協会は、会議において読み上げられたメモワールに賞が与えられたが、農事品評会は、最初は、農業について話し合う会が発展して、実際に、牛や馬等の家畜を競い合わせ、動物を会場に集めるという意味で、競売の要素が指摘できる。この競売のやり方は、当時普通売に売ると比べて、大きな優位性があった²⁸。

続いて、パッサイによると、1787年には、協会を活気づけ、繁栄させる方法として、協会裁判所に持ち込まれた訴訟手続きの中にある。それは、競売人の定義に関しての複雑な法律論争があると言われている。イングラッドでは、オークション制度がすでに15世紀末期には利用されていたと推量できるのだが、より確かな資料が手に入るのは17世紀に入ってからと述べられている。p.21.

26 Premiums by the Society, Established at London, for the Encouragement of Art, Manufactures, and Commerce 1764, pp.75-76.
 27 Passy, L. "Histoire de la société nationale d'agriculture de France", p.96.
 28 Le Rebours, "Extrait de la Gazette du Commerce, concernant la Société des Souscripteurs de Londres, l'Agriculture, des Manufactures et du Commerce", *Journal Encyclopédique*, vi, l, 1764, p.83.

は、回復させられ、設立された農事品評会を指導することになった²⁹。1790年に、協会から出版されたクレチ・ドク・パリエールのメモワール (報告書) によると、そのメモワールは、パリの科学制度を持つ中心と団結を与えるために、農事品評会の権限を作ることを提案している³⁰。1790年には、革命の影響から農業協会の規約を変化させる動きがあった。終身幹事は、毎年、公的な会議において協会 (Compagnie) の仕事の歴史を示し、様々な協会、農業協会、農事品評会の会員を伴って、通信員と話し合う事が決まった³¹。

ルコムトク (LECOMTE, C.) によると、ヴェルチエ・ド・ソーヴニエ (Berthier de Sauvigny) は、穀物の投機を避けるために、農事品評会を設立したという。ベルタンが、第5国務卿として農政を担当したのは、1763年~1780年である。その後、ヴェルチエ・ド・ソーヴニエが、革命まで農政を担当した。ヴェルチエ・ド・ソーヴニエは、農事品評会を設立した。その設立の目的は、耕された植物の生産を研究する科学、技術、又、畜産学の進歩を普及させるためであった³²。穀物の投機を避けることであるが、この時の穀物価格の指数を統計から見ると (表1参照)、1951年~60年の野菜の生産物の指数は、44.2ポイントと18ポイントも指数が上かっている。

カニイ・G (Cany, G) によれば、フランス南部の農業を進歩させることを目的にして、農業教育と新しい耕作器具の使用について最高の方法を学ぶために、さらに、各小郡にモワル農場を設立するために農業コンクールを開く事を上かっている。

年-80年は62.2ポイントと18ポイントも指数が上かっている。

29 Passy, L. "Histoire de la société nationale d'agriculture de France", p.133.
 30 Passy, L. Ibid., p.331.
 31 Passy, L. Ibid., p.344.
 32 CURAPP "La loi du 28 pluviôse an III" PUF, 2000, p.20.

最終生産物の価格の指数	野菜の生産物の価格の指数	
	1751-60	1771-80
	44.2	62.2
	42.2	55.3
	61.3	56.3

表1 農業生産物の価格の暗黙の指数

出典 Perroux, François "Cahiers de l'Institut de science économique appliqué e" 1961, J. Marczewski "Histoire quantitative de l'économie française (2)" J.-c. Toutain "Le produit de l'agriculture française de 1700 à 1958: II - La Croissance" p.143.

提案している³³。1837年のこの史料では、コンクールは、行なわれているものの、家畜の比較のコンクールは、行われていなかった。

2. 最初の農事品評会 (comice agricole)

最初の農事品評会は、何年にできたか。この質問に答えるためには、マルセル・ラシエ (Lachivers, M) を参照しなければならぬ³⁴。その文献によれば、1778年に、農事品評会という名前が、再び、共同で農業における最高の方針や様々な改良を討論するために耕作者、畜産業者などによって形作られた自由な協会の中のこれらの会議に与えられたとある。

どのようなことからこの農事品評会が生まれたかについては、ジュウクアブ・クリスチアン (Jouquand, Christian) が、ブルターニュ地方のプレッ (Plesder)³⁵という枠組みから示している³⁶。その文献の中で、パリの農業協会は、

- 33 Cany, G "Concours agricole pour l'établissement d'une ferme-modèle Temporaire dans chaque canton successivement d'une ferme-modèle permanente dans chaque commune rurale de La France." 1837, pp.5-7.
 34 佐藤崇章著『パリの国際農業サロンの歴史—1788~2015年—(資料解題)』オームエス出版2016, p.5.
 35 プルターニュの北東に位置する地名。
 36 Jouquand, Christian, "Le Comice Rural de Plesder (Ille-et-Vilaine)-le premier des comices agricoles bretons", 2008, pp.88-110.

殖用の家畜の販売は、この品種を広めるのを許した。初めの成功、品種の変化やその改善にもかかわらず(1855年に作られた血統書、1881年の飼育の協会)、純粋なシヨートホーソ種は、急速に減り、1943年に約1万の代表例しか数えない。それでも、この品種は、1939年まで総コシヨール (Concours Général) において、そのカチゴリーにあった⁷⁰。

フミゼ (Amizet, A.) によると、シヤロレー種とシヨートホーソ種の関わりについて、1830年に異種交配は、大飼育業者F・ポイール (de Bouille) 氏によって試みられ、1843年に断念されたという。異種交配は、後でまた実施されていく。しかし、生産物は、仕事用に少しも適していない。飼育業者達は、従って、近親交配の再生産に再び戻り、サオヌーエーロワール (Saône-et-Loire) の繁殖用動物を来させた。シヨートホーソの血は、区別が純粋なシヤロレー種とシヤロレーニヴェルヌ種の間優位があり、そして、動物の改善を大いに促した。しかし、シヨートホーソの品種は、無秩序な方法の多くの場合において、利用されていた。そして、しばしば、階層の改善のどんな心配もなかった。多くの異種交配の生産物は、繁殖用動物として利用されている。そのような方法は、始めの成功の後、長目で見れば、失敗だった⁷²。現代の視点からこのシヨートホーソの導入は、当時の流行であったという意見もある⁷⁴。

なぜ、1844年にポワシエが、現在のパリ国際農業サロンの原型となったのか。4章と5章を踏まえて、家畜を集めるために地理的、歴史、機能的に都合が良かったと言える。そして、パリでは、その当時巨大な家畜とそれを管理する人を集めるのに不都合だった。それは、ポワシエの市場の成り立ちから始まり、飼育の技術は、著者によってよく知られ、詳細に発表された。著者：モル

70 Amizet, A "L'Évolution des races bovines françaises depuis la fin du XVIII^e siècle", 1964, p.75.

71 Amizet, A, Ibid., 1964, pp.61-62.

72 Amizet, A, Ibid., 1964, pp.51-52.

73 Amizet, A, Ibid., 1964, pp.98-100.

74 Delphine, Berdah "Les transformations des savoirs vétérinaires en France XVIII^e-XIX^e siècle" Revue d'histoire moderne et contemporaine, 2012, Tome59, No4, p79.

従って、農協会から生まれた農業コシヨールは、1844年に、パリ西部のポワシエにおいて、現在のパリ国際農業サロンになったものと同じ。農協会から生まれた農業コシヨールの原形になった事を証明する事だった。

6. 結びにかえて

上述のように、本稿の目的は、農協会、農業コシヨール (又農事品評会) についての文献、史料から、農事品評会 (又農業コシヨール) の記述を整理し、農事品評会 (又農業コシヨール) がどのような事を行ったか、より良い家畜を生じさせ、褒賞の分配と、比較を設けた。そして、その褒賞を与えられたための基金としての役割があった。その名前、古代のローマの選挙や公共の事柄を話し合う会議から取ってつけられた。1788年の農事品評会に関する史料によれば、まだ動物の褒賞の分配、動物の比較はみられない。1790年の史料本稿において分かった事は、マルセル・ラシェー (Lachères, M) よれば、1778年に、農事品評会という名前が、再び、共同で農業における最高の方法や様々な改良を討論するために耕作者、畜産業者などによって形作られた自由な協会の中これらの会議に与えられ事であった。

ルコムトウ (LECOMTE, C) によると、ヴェルチエ・ド・ソーヴニエ (Berthier de Sauvigny) は、穀物の投機を避けるために、農事品評会を設立した。その設立の目的は、耕された植物の生産を研究する科学、技術、又、畜産学の進歩を普及させるためだった。これらの事により、最初は、農業について話し合う会が、次第に発展し、ルコムトウの言うような目的になったと農協会から生まれた農業コシヨールは、現時点で (利用できる残存する史料から) 1778年には設立されていた。ラビツシュ (Labiche, E) によると、フランスにおいて導入された新たな品種のために、試験の大部分は、金銭に おける奨励が与えられ、農業コシヨールの種概

念を打ち立てた。おそらく、この部分が、農業コシヨールの最大の業績と思われる。パッスイ (Passy, L) によれば、イギリスの例や風習に着想を得て、農事品評会の機構を導入した事がわかる。イギリスの例や風習というのは、魚の競売から着想を得たものだった。これが、耳がてシヤーナリストから財務総監ベルタンの耳に入り、協会へ伝えられ、農事品評会 (又、農業コシヨール) の成立に大きくつながったといえる。その農業コシヨールでは、畜産業者が、より良い家畜を生じさせ、褒賞の分配と、比較を設けた。そして、その褒賞を与えられたための基金としての役割があった。その名前、古代のローマの選挙や公共の事柄を話し合う会議から取ってつけられた。1788年の農事品評会に関する史料によれば、まだ動物の褒賞の分配、動物の比較はみられない。1790年の史料本稿において分かった事は、マルセル・ラシェー (Lachères, M) よれば、1778年に、農事品評会という名前が、再び、共同で農業における最高の方法や様々な改良を討論するために耕作者、畜産業者などによって形作られた自由な協会の中これらの会議に与えられ事であった。

事品評会)を生み出した。その農事品評会が、各地で家畜の比較を行った事から、1844年において、ボワシーにおいて家畜の品評会と卸売りが行われ、パリ国際農業サロンの現在の形に繋がった。つまり、それは、現代フランス農業の今日的意義が示せたのではないかと考えている。そして、農業協会の様々な活動が、結集して、農事品評会になったものと言える。さらに、農業協会、農事品評会(Cornice agricole)、パリ国際農業サロンの研究を通して、三つの機関に通過するその背景にある普遍的な思想は、その時代の農業に関する諸問題の解決へ向けた考えと農

業者・畜産家の競争させる事が農業にとって良
い事であるという考えがある”。そして、残され
た課題は、1778年に農事品評会ができた時に、
設立に主導的な役割を果たしたのは、誰かとい
う問題である。今日、パリ国際農業サロンの組
織は、農業大国フランスの象徴的な意味を生じ
させている。種々の農業問題からトウリスム
まで幅広く、現代社会の問題への解決に貢献し
ている。さらに、これからも、農業協会や農業
コンクールに関する史料からこのパリ国際農業
サロンにつながる歴史を示したい。

77 佐藤崇享著、前掲、(明海大学大学院経済学研

究科紀要、2013年第5号)、佐藤崇享著、前掲
書、オーエムエス出版2016 参照、l'abbé Sautier,
"EXTRAIT des Procès-verbaux des Comices Agricoles
de Joigny, du 5 Février 1787, au premier Juillet
inclusivement", *MÉMOIRES D'AGRICULTURE,
D'ÉCONOMIE RURALE ET DOMESTIQUE*,
publiés par la Société Royale d'Agriculture de Paris,
ANNÉE 1788, p.35. Creté de Palluel "MÉMOIRE
sur l'utilité de l'établissement de comices Agricoles"
*MÉMOIRES D'AGRICULTURE, D'ÉCONOMIE
RURALE ET DOMESTIQUE*, publiés par la Société
Royale d'Agriculture de Paris ANNÉE 1790, p.138.
LE FIGARO premier quotidien national français,
VENREDI 6 MARS 1998 (N°16659) p.12. (パリ)国
際農業サロンにおいて問題にされたクローン羊に
ついての記事。フランスで、狂牛病が最初に発見
されたのは、1991年3月のブルターニュ地方のコ
ト・タルモール県であるが、何千頭もBSEの疑い
で処分された記事は、2000年代から著しくなった。
パリ国際農業サロンにおいてもその問題は、クロー
ヌアップされていた。